

令和 6 年 3 月 13 日

足立区立栗原小学校
校長 田中 泰徳 様

足立区立栗原小学校
開かれた学校づくり協議会
会長 塚本 孝子

令和 5 年度 学校関係者評価

1 自己評価書全般について

重点 1ー学力アクションプラン

2月の予備調査の結果を見ると、国語については達成基準を7ポイント弱上回っているため、日頃の指導の成果が現れていると感じる。一方で算数については、2ポイント弱下回ってしまっている。算数の出題形式にまず慣れさせてから、学習内容の指導にあたってほしい。読書活動の充実については、子供たちがおもしろいと感じる本に出会うことができれば、自ずと本が好きになり、読書習慣が身に付くと考える。

今後は、学習する内容が、子供が生活するために必要であったり役立てられたりするということを、子供自身が感じ取れるように指導してほしい。

重点 2ー豊かな心の育成

子供の登校時、危険な箇所で見守りを行うなかで、声をかけ挨拶が返ってくる子供とそうでない子供は半々くらいである。学校においては、意識的に挨拶をしようという取組を行っているが、意識的に挨拶をするというよりも自然に挨拶ができる子供を育てたい。また、物を大切するという意識も薄く、ゴミや落とし物に関心がない子供が多いと感じる。当事者意識をもたせる指導が必要であると考ええる。

本来、家庭で行うべき「しつけ」が身に付いていない子供たちにとって、学校での指導が重要となる。学校としての役割が増える一方ではあるが、その大切さを理解したうえで指導にあたってほしい。

重点 3ーたくましい体の育成

遊ぶ場所や時間がないという現状を考えると、子供たちが体を動かす機会が減りかわいそうであると感じるが、学校全体として体力の向上を図る取組がされていて、努力していることが分かる。また、給食の残菜率が1%を切っていることを考えると、食育についてもしっかりと指導されていることが分かる。

体を動かすことは楽しいことであるということを、子供たちが理解できるように指導するとともに、運動、食事、生活習慣等の改善を図りながら健康の大切さを理解できる子供を育ててほしい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

コロナ禍以前のように、開かれた学校づくり協議会として、地域や保護者と連携して子供たちと楽しい行事を行いたいと考えている。また、保護者や地域の声を生かすためにも、学校公開や行事をとおして、たくさんの方々に参観できるように願っている。

3 その他

1年生からタブレットの操作が身に付いていて、GIGA スクール構想における一人一台端末配備の効果が十分に現れている。学習したことの定着度の向上に寄与しているとともに、様々な学習方法を自分で選択できることがよいと考える。授業準備やメンテナンス等、教職員の負担も大きくなるが、子供たちのために教育活動を行ってほしいと考えている。